党声明　共産主義者同盟（全国委員会）

# 米帝による報復戦争出動を阻止せよ！

## ～9・11事件に対するわれわれの態度～

「これは21世紀最初の戦争だ」－米国大統領ブッシュは報復戦争の策動を正当化するために9月11日に起きた事件をこのように評した。じつにそれは一つの戦争というべき大事件であった。これによる政治的・経済的影響は米国一国にとどまらず、ただちに全世界に波及し、いまなお波及しつづけている。われわれが何よりも痛ましく思うことは、この事件によって多くの労働者・市民の命が失われたことである。事件に巻き込まれて犠牲となった人民に対して、われわれは心からの哀悼の気持ちを表明する。

*

ニューヨークの世界貿易センタービル、ワシントンの国防総省などを主要攻撃対象としたと思われる今回の事件は、現代世界に深く蓄積されたマグマのような矛盾の噴出であり爆発であった。全世界の人々はこの事件を通して、帝国主義によって支配された現代の世界がいかに不安定なものであるかをいやおうなく強烈に印象づけられた。矛盾はついに帝国主義の頂点に立つ米帝の心臓部において爆発したのであった。多くのでたらめな言説に抗し、今回の事態の真の責任は米帝を筆頭とする国際帝国主義にこそあるということが明確にされなければならない。今回の事件の根底には、帝国主義が経済的・政治的・軍事的な、ありとあらゆる手段を使って行なってきた全世界の支配、とりわけ第三世界といわれる地域の人々に強いてきた植民地的な支配、民族的抑圧、法外な搾取が存在していることをわれわれは指摘しておかねばならない。

*

ところが米帝をはじめとする帝国主義大国は、今回の事件を「自由と民主主義に対する挑戦」と完全に問題をすりかえ、「米国に対して宣戦布告がなされた。米国は世界を勝利に導くだろう」（9月13日・ブッシュ）といいなして、大規模な報復戦争にうってでようとしている。これはまったくの責任転嫁であり、新たな犠牲と悲惨を全世界の人民におしつけることによって、みずからがおちいった危機を乗り切ろうとする卑劣な策動である。このようなマヌーバーにけっしてだまされてはならない。「冷戦」後の世界において、米帝はその干渉主義・侵略主義をいっそう露骨に強めてきた。米帝は91年の多国籍軍による湾岸戦争、99年のＮＡＴＯ軍によるユーゴ空爆の先頭に立ち、98年にはいっさいの国際法を無視してアフガニスタンとスーダンに巡航ミサイルを打ち込むという暴挙を行なった。こうした侵略戦争がいま「国際テロリズムへの共同対処」を名目にして、きわめて大規模なかたちでくり返されようとしているのである。わが日本帝国主義・小泉政権は、こうした米帝の動向に同調し、はやばやと「米国支持」の態度を打ち出した。小泉は米帝の報復戦争出動に対する最大限の支援・援助を約束している。それだけではない。日帝は今回の事件を奇貨とし、有事法制整備や集団的自衛権行使など彼らが懸案の課題としてきた問題の解

決を一点突破的にねらっているのだ。われわれは米帝の報復戦争策動、G７諸国のこれへの協調、とりわけ日本帝国主義の戦争協力を絶対に許してはならない。

*

今回の事件は、米帝をはじめとする帝国主義諸国に大きな打撃を与えた。この事件を大きなインパクトとして、すでに事件前から始まりつつあった米帝バブル経済の崩壊、世界同時不況への突入という動きは決定的に促進されていくだろう。帝国主義がこうむった被害は甚大である。だがしかし、どのような勢力によって実行されたものであろうとも、われわれは今回の事件を「正義の闘争」として評価するものではない。帝国主義に対する闘争の意義は、帝国主義に与えた物理的な打撃の大きさによってだけでなく、むしろより以上にその闘争を通じて人民の団結がどれほど強化されたのかによってはかられるべきである。もし今回の事件が、主観的には何らかの「反帝国主義闘争」として計画され実行されたものであったとしても、その戦術には大きな誤りがあったといわねばならない。それは米国の労働者人民の闘争を励まし勇気づけるものではなかったし、彼らと全世界の被抑圧人民の団結を強化するものではなかった。それは、米帝内の労働者人民をともに肩を組んでたたかうべき対象としてみるのではなく、彼らを米帝ブルジョアジーと区別しないことを前提として立てられた戦術であった。

*

ますます強化され暴虐化する帝国主義の世界支配に対して、全世界のプロレタリアート・農民・都市貧民の国際連帯による共同の闘争こそが強化されねばならない。全世界のプロレタリアート・農民・都市貧民の固く団結した力によって帝国主義の支配の打倒・一掃をわれわれはめざさねばならない。今回の事件はあらためてそのことの死活的な重要性を、おびただしい血の犠牲をもってわれわれに教えたのである。９・11 事件を教訓とし、帝国主義に対する国際的な闘争をさらに強化するために立ち上がろう。米帝による報復戦争阻止、ブッシュ来日・訪韓阻止にともに決起しよう。

**2001 年 9 月 14 日**

**共産主義者同盟（全国委員会）**